

## 带状疱疹ワクチンについて

今回新しい带状疱疹ワクチン「シングリックス」のことについてお話しいたします。

### 【带状疱疹とは】

带状疱疹は带状疱疹ウイルスによって起こる皮膚の病気で、原因となるのは水ぼうそうと同じウイルス（水痘・带状疱疹ウイルス）です。このウイルスに初めて感染すると水ぼうそうにかかります。多くの方が5歳ごろまでに水ぼうそうを経験しています。

水ぼうそうが治っても原因となったウイルスはいなくなったわけではなく、痛みなどの感覚を脳へ伝える感覚神経の根元の神経節というところに潜んでいます。そして、何らかの理由で免疫の働きが低下したときに、このウイルスが再び増殖して、潜んでいた神経節から神経を伝って移動し、皮膚や神経を攻撃して带状疱疹を起こします。

水ぼうそうにかかったことがある人をはじめ、自覚のない感染や予防接種などで、ほとんどの大人は原因となるウイルスを体内にもっています。带状疱疹の発症のきっかけになりやすいのは、加齢、病気、過労、ストレス、体力の低下などで、男女とも50歳代から急激に多くなります。日本では高齢化とともに増え、最近では3人に1人が一度は带状疱疹を起こすともいわれます。

### 【带状疱疹の症状について】

带状疱疹の特徴的な症状は、帯状の発疹と強い痛みです。一般に、体の左右どちらか片側に、神経の通り道に沿って痛みが起り、続いて同じ部位に赤い発疹が帯状に現れ、水ぶくれができます。

带状疱疹では主に感覚神経が侵されて痛みが出ますが、重症になると運動神経まで侵されて麻痺を起し、腕が上がりなくなったり、顔や頭部に起こった場合には、顔面神経麻痺や味覚障害、難聴などを招くこともあります。特に問題なのは神経痛だけが残ることがあり3か月以上続く場合には、带状疱疹後神経痛と診断されます。

### 【带状疱疹を予防するワクチン】

#### 带状疱疹ワクチンの種類

（「生」ワクチンと新しいワクチンの2種類があります）

2016年以降、50歳以上の带状疱疹の予防として使用してきたワクチンは「水痘「生」ワクチン」でした。「生」ワクチンは免疫不全がある人や、免疫抑制治療中の人に投与することができません。

2020年1月に新規带状疱疹ワクチン「シングリックス」が発売され、50歳以上の方に接種できるようになりました。2023年6月26日より带状疱疹の発症リスクが高いと考えられる18歳以上の方も接種可能になりました。合成されたワクチンのため、関節リウマチなどに対する免疫抑制治療中の患者様でも接種することが可能です。

シングリックス®の带状疱疹に対する予防効果は、50歳以上の方で97.2%と水痘ワクチンよりも有効性が高いと報告されています。よって我々は安全でかつ予防効果の高いシングリックスを推奨しています。

### 【シングリックスについて】

シングリックスは原則的に2回接種が必要です。筋肉注射で、通常上腕の三角筋に接種します。1回目の接種のあと、2か月の間隔をあけて、2回目の接種を行います。もしも2か月を超えた場合でも、6か月後までに接種を行うことが推奨されています。

ただ問題なのは一般的にはシングリックスは現在のところ横浜市では補助金制度がなく費用は全額自己負担で医療機関により異なりますが1回22,000～25,000円と高額になります。

2022年10月時点で横浜市のホームページによると横浜市における带状疱疹ワクチン接種については50歳以上の方を対象として任意接種（自費診療）で行われており、横浜市では費用の助成等はありませんと市民の声にて公表されています。他の自治体では補助金がでているところがありますので横浜市においては皆様に市民の声を届けていただき助成金制度が実現できたらよいと考えます。高額ですが带状疱疹を予防するための保険のようなものと考えて是非皆さま接種をすることを勧め带状疱疹の予防をされることを切に願います。持病のある方は主治医とよく相談してみてください。